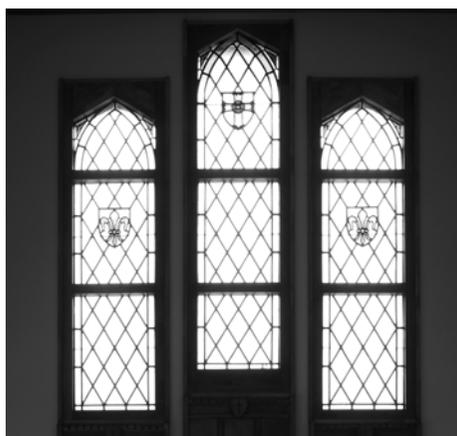


東日本大震災 8周年記念の祈り

午後2時46分の黙想

—同じ時 想いを一つに 皆で祈りを—



—すべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えて—

2019年3月11日（月）午後2時15分

礼拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

[ユニゾン]



1 おそれにとらわれさまよいうやみじにて
2 たえざるはめぐみにさはげまうしやうけて
3 こころはひらかれみことばかがややく



ひるまぬこのろを おあたえくださいく
せつなくもいのりをはり おあちをきりひらく
くるくもすぎさり 日だま りにむか



いかなる—ときにも あなたはとも—to じに
このみ—ゆだねる あなたをしんじめ
たびじ—ふみだす あなたをみつめ



かみよ—ちからを いきるちからを
かがみよ—みわざを いきるちからを
かがみよ—ひかりを いきるちからを

Osoreni toraware
Paul Hikari Miyazaki (1965-)

8888 8777
KANAME
Nitei Torii

ひがし に ほんだいしんさい しゅうねん きねん いの
東日本大震災 8 周年記念の祈り

この祈りは午後 2 時 15 分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

つど
ともに 集う

一同立つ。

司式者 ちち かみ しゅ 父なる神と主イエス・キリストからのめぐ へいわ が、みな
会衆 また、あなたとともに

く あらた いの
悔い改めの祈り

司式者 かみ ひと こ あた 神はその独り子をお与えになったほどに、よ あい
この神の愛にこた へたるため、みずか がえり つみ ゆる いの
ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 あわ ぶか かみ 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければな
らないことをせず、おも ことば おこな 行いによって、あなたとな びと たい
して多くのおお つみ おか の罪を犯しています。どうかつみぶか
新しい命に歩み、み心 したが さか 現すことができますように、
すく ぬし 救い主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

聖歌 第 477 番

とく とう
特 禱

司式者 しゅ みな 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 いの 祈りましょう

天地の造り主である主よ、あなたは苦しみ悩みのうちにある人びとを支援してください。どうか、東日本大震災のために、今なお苦難のうちにある人びとを顧み、ふたたび立ち上がる力をさずけてください。また、わたしたちもこの人びとの悩み苦しみを祈りのうちに覚え、その痛みを少しでも共に担うことができますように。苦しむ人と共に歩んでくださる、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

ともに聞く

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

第1朗読

朗読者 第1の朗読は、ヘブライ人への手紙 第12章1節から

1 こういうわけで、私たちもまた、このように多くの証人に雲のように囲まれているのですから、すべての重荷や絡みつく罪を捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。2 信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら、走りましょう。この方は、ご自分の前にある喜びのゆえに、恥をもちとわなないで、十字架を忍び、神の王座の右にお座りになったのです。3 あなたがたは、気力を失い、弱り果ててしまわないように、罪人たちのこのような反抗を忍ばれた方のことを、よく考えなさい。

(ヘブライ 12:1-3)

朗読者 第1の朗読を終わります

詩編 第16編(8-11節)

- 8 私は絶えず目の前に主を置く || 主が右におられ、私は揺らくことがない
- 9 それゆえ、私の心は喜び || 心の底から喜び踊り、この身もまた安ら

かに^す住まう

10 あなたは^{わたし たましい よ み す お}私の魂を陰府に捨て置かず || あなたに^{ちゅうじつ もの ほろ あな}忠実な者に滅びの穴を
み
見せず

11 命^{いのち みち わたし しめ}の道を私に示されます || 御前^{みまえ}には満ち溢れる^{み あふ}喜びが、右^{よろこ}の手には麗^{みぎ て うるわ}
しさ^{えいえん}が永遠にありますように

ふく いん しょ
福 音 書

朗読者が執事または司祭の場合には、以下の福音書朗読前後の唱和（祈祷書 166 ページ）
を用いることができる。

朗読者 聖マルコによる福音書 第10章46節から

46 一行^{いっこう}はエリコ^きに来た。イエスが弟子^{でし}たちや大勢^{たいせい}の群衆^{ぐんしゅう}と一緒に、エリ
コ^でを出られると、ティマイの子^こで、バルティマイという盲人^{もうじん}が道端^{みちばた}に座^{すわ}って物
乞^こいをしていた。47 ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子^こイエスよ、私^{わたし}
を憐れ^{あわ}んでください」と叫^{さけ}び始^{はじ}めた。48 多く^{おお}の人々^{ひとびと}が叱^{しか}りつけて黙^{だま}らせよう
としたが、彼^{かれ}はますます、「ダビデの子^こよ、私^{わたし}を憐れ^{あわ}んでください」と叫^{さけ}び続^{つづ}
けた。49 イエスは立^たち止^どまって、「あの人^{ひと}を呼^よんで来^きなさい」と言^いわれた。人
々^{びと}は盲人^{もうじん}を呼^よんで言^いった。「安心^{あんしん}しなさい。立^たちなさい。お呼^よびだ。」
50 盲人^{もうじん}は上着^{うわぎ}を脱^ぬぎ捨^すて、躍^{おど}り上^あがってイエスのところ^きに来^きた。51 イエスは、
「何^{なに}をしてほしいのか」と言^いわれた。盲人^{もうじん}は、「先生^{せんせい}、また見^みえるようになる
こと^いです」と言^いった。52 イエスは言^いわれた。「行^いきなさい。あなた^{しんこう}の信仰^{しんこう}が
あなた^{すく}を救^{すく}った。」盲人^{もうじん}はすぐ見^みえるようになり、なお道^{みち}を進^{すす}まれるイエスに
したが
従^{したが}った。 (マルコ 10:46-52)

朗読者 聖マルコによる福音書を終わります

かん わ せつきょう
★ 勸話または説教

勸話または説教をする。

* 沈 黙

午後 2 時 4 6 分まで沈黙のうちに待つ。

* 打 鐘

午後 2 時 4 6 分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1 分間、黙禱の時を持つ。

黙禱後、次の唱和を用いる。

司式者 ^{ひがしにほんだいいしんさい} 東日本大震災によるすべての犠牲者 ^{ぎせいしや} を ^{おぼ} 覚えます

主よ ^{しゅ} 永遠の平安をこの人々に ^{へいあん} 与え ^{ひとびと} ^{あた}

会衆 ^た 絶えざる ^{ひかり} 光 ^て をもって照らしてください

^{し と しんきょう}
使徒信経

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、^{てんち} 天地の造り主、^{ぜんのう} 全能の父である ^{かみしん} 神を信じます。

また、その ^{ひと} 独り子、わたしたちの ^{しゅ} 主イエス・キリストを信じます。主は ^{しゅ} 聖霊によ

って ^{やど} 宿り、おとめマリヤから ^う 生まれ、^う ポンテオ・ピラトのもとで ^{くる} 苦しみを ^う 受け、

^{じゅうじか} 十字架につけられ、^し 死んで ^{ほうむ} 葬られ、^{くだ} よみに降り、^{みつかめ} 三日目に ^{しにん} 死人のうちから ^{よみ} よみ

がえり、^{てん} 天に昇られました。そして ^{ぜんのう} 全能の父である ^{かみ} 神の ^{みぎ} 右に ^ざ 座しておられます。

そこから ^{しゅ} 主は ^い 生きている人と ^{ひと} 死んだ人とを ^{さば} 審くために ^こ 来られます。

また、^{せいれい} 聖霊を信じます。 ^{せい} 聖なる ^{こうかい} 公会、^{せいと} 聖徒の ^{まじ} 交わり、^{つみ} 罪の ^{ゆる} 赦し、^{からだ} 体の ^{よみがえり} よみがえり、

^{えいえん} 永遠の ^{いのち} 命を信じます ^{しん} アーメン

^{へいわ} ^{あいさつ}
平和の挨拶

司式者 ^{へいわ} キリストはわたしたちの平和です

会衆 ^{しゅ} わたしたちは ^な 主のみ名によって ^{であ} 出会い、^{しゅ} 主の ^{へいわ} 平和を ^わ 分かち ^あ 合います

司式者 ^{へいわ あいさつ か} 平和の挨拶を交わしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

ささ 献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉が聖句を用いてもよい。

司式者 ^{しゅ すく わざ かんしゃ さんび ささ} 主の救いのみ業に感謝し、ともに賛美を献げましょう

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 ^{しゅ たまもの} すべてのものは主の賜物

一同 ^{しゅ う しゅ ささ} わたしたちは主から受けて主に献げたのです アーメン

いの ともに 祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 ^{すく めし ことば わざ たよ ぜんこうかい せ} 救い主イエス・キリストのみ言葉とみ業に頼り、全公会のため、また世
^{がい ひがし にほんだいいしんさい おぼ いの} 界のために、ことに東日本大震災を覚えて祈りましょう

司式者 ^{いつく ぶか かみ なくさ しゅ いま ねん へ ひがし にほんだいいしん} 慈しみ深い神、慰めの主よ、今、わたしたちは8年を経た東日本大震
^{さい おぼ いの ひさいち ひと ひなんせいかつ し} 災を覚えて祈ります。どうか、被災地にある人、避難生活を強いられて
^{ひと とく にほんしゃかい なか い こんなん くる ひと しょうらい きぼう} いる人、特に日本社会の中で生きることの困難に苦しむ人、将来の希望
^{み だ せない ひと ささ} を見い出せない人（ことに ）を支えてください

会衆 ^{しゅ き} 主よ、お聞きください

司式者 ^{げん しりょくはつでんじょじ こ うしな し ぜん ひとびと せいかつ おぼ ぶる} 原子力発電所事故により、失われた自然と人々の生活を覚えます。故
^{さと はな せいかつ ひと きけん さぎょう じゅうじ ひと かぞく まも} 郷を離れて生活する人、危険な作業に従事する人とその家族をお守り
^{せいじ しゃかい せきにん も ひとびと ただ みち あゆ} ください。そして政治と社会に責任を持つ人々に正しい道を歩ませてください

会衆 主よ、お聞きください

司式者 わたしたちもまた、これらの苦難をつねに覚えることができますように。
日本聖公会の被災者支援の働きを強めてください。そしてわたしたち
も思いと力を合わせて、共に歩み続けることができるように導いてく
ださい

会衆 主よ、お聞きください

司式者 いのちの源である主よ、東日本大震災のすべての犠牲者、そして世界
各地の災害と争いの中で生命を失った人々を、あなたのみ腕の中に抱
き、永遠の安らぎを与えてくださいますように

会衆 主よ、これらの祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願いいたし
ます。アーメン

主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

くに ちから えいこう えいえん
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

かん しゃ
感謝

司式者 ともに祈りましょう

すべてのものの^{みなもと}源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子^ことの出会いをとおして主^{しゅ}の家^{いえ}に招^{まね}いてくださいました。このあなたの愛^{あい}に感謝^{かんしゃ}し、み名^なをほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉^{ことば}と恵み^{めぐ}と平和^{へいわ}を、わたしたちがすべての人^{ひと}びととわが^{わが}あ^あの^のち^ちあ^あう^うこと^{こと}が^ができ^{でき}ます^{ます}よう^{よう}に。そして聖霊^{せいれい}の導^{みちび}きにより、あなたの光^{ひかり}でこの世界^{せかい}を照^てらす働^{はたら}きに与^{あずか}らせてください。またあなたがわたしたちに与^{あた}えてくださった希望^{きぼう}を変^かわること^{こと}なく保^{たも}たせ、すべてのものがみ名^なをほめたたえることができますように、主^{しゅ}イエス・キリストによってお願い^{ねが}いたします アーメン

しゅ い
主とともに行く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 限り^{かぎ}ない愛^{あい}と恵み^{めぐ}の神^{かみ}が、世^よにある人^{ひと}と世^よを去^さった人^{ひと}との全公会^{ぜんこうかい}を、み子^こイエス・キリストによる復^{ふっかつ}活^{かつ}とみ国^{くに}の喜^{よろこ}びに導^{みちび}いてくださいますように
会衆 アーメン

はけん しょうわ
派遣の唱和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 神^{かみ}と人^{ひと}とに仕^{つか}えるため^{ため}に行^いきましょう
会衆 主^{しゅ}のみ名^なによって アーメン

ここで聖歌を用いてもよい。

聖歌 第505番

聖歌505番はお手持ちの聖歌集をご参照ください。



この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、
『日本聖公会聖歌集』(2006年)、『聖書 日本聖書協会共
同訳』(2018年)から抜粋したもので、日本聖公会東北
教区主教 主教 ヨハネ 吉田雅人が、救主降生2019年3
月11日の東日本大震災8周年記念の祈りでの使用を許
可したものである。